

より高く
より広く
より大きく



第35号
発行 日本詩吟協会総本部
編集 広報編集委員会
〒125-003
東京都葛飾区鎌倉1-2-4 (岡村)
TEL 03-3673-9237
携帯 090-7273-7735
FAX 03-3673-9237
郵便振替 00170-1-72817

ご挨拶

日本詩吟協会総裁 富澤龍吟



世界的に天候異変が起こり、天災が多発しております。温暖化の影響によるものでしょうか。

日本でも新年早々、能登半島地方に地震が起こり、甚大な被害がでました。政府では、災害給付金五十億の予算で対応しておりますが、復興が遅れ、まだ瓦礫の山が散々としております。一日も早い対応が望まれます。

天災は何時起こるか分かりません。普段の準備、備えが必要です。特に災害時の精神面が心配されます。私たちは、毎日詩吟を腹式呼吸で練習しております。精神面では大変心の糧となっております。

日常の鍛錬は「氣」を養って参ります。精神面の鍛錬向上の為、詩吟の習得も必要かと存じます。詩吟の仲間が減少しておりますが、一人でも多くの方を増やして参りましょう。

所感

日本詩吟協合理事長 岡村心蒼



栄養失調で枯れ枝のような子供の腕。太古の昔から人間は愚かな戦争を繰り返して来ました。好き嫌いの感情が根源であると言う。一部指導

者の感情に溺れ理性を失った思想が悲劇を生む。さて「第三十六回」日本詩吟選手権大会首都圏地区からコメント内容を一新致します。今までのコメントは良い点悪い点の指摘のみで内容もマンネリ化。そこで今回から項目（吟声、音程、節調、読み、詩心）五段階評価をします。今までの言葉のコメントから数字に変わります。五項目別にそれぞれ（一〜五）の評価によって出場吟者の今後の勉強の目標が鮮明に見えてくるはずですよ。

話は変わりますが、何年前か前に某会派の大会終了後打ち上げに招待された時の事です。テーブルを挟んで対面に品の良い齢を召された小柄な女性。何と御年九十七歳とか。ニコニコしながら「私は人の為に尽くす事が何よりの喜びと幸せです」と目を細め私に話しかけて来ました。聞けば会の会計を現役で担当しているとの事。尊敬の一語につきまます。私は思います。人間の幸せとは何でしょうか。

衣食住、健康、金銭、家庭、その他多種多様な幸せ感はあるでしょうが、年令を重ねても人の為に尽くす事が出来ることほど大きな幸せはないと思います。私も数年前に後期高齢者の仲間になりましたが、幸いに今のところ健康ですので、各種大会の役員等を務めさせていただいています。今後共、最高の幸せを噛みしめながら吟詠の発展を願いつつ「人生百年時代」を生きて行く所存です。



「第三十五回」日本詩吟選手権大会開催

文部科学大臣賞
日本詩吟協会総裁賞
日本詩吟協合理事長賞

奥山晴美さん(千葉)
三浦聡子さん(東京)
岩田裕美さん(東京)



文部科学大臣賞
奥山晴美さん



日本詩吟協会総裁賞
三浦聡子さん



日本詩吟協合理事長賞
岩田裕美さん

第三十五回、日本詩吟選手権全国決選大会(主催：日本詩吟協会総本部)は東京墨田区曳舟文化センターに於いて、四月二十一日(日)開催された。

競吟は全国の予選大会を勝ち抜いた百十六名によって競われたもので、結果は優勝文部科学大臣賞を奥山晴美さん(櫻風会)準優勝日本詩吟協会総裁賞は三浦聡子さん(哲泉流日本吟詠協会天翔会)第三位日本詩吟協合理事長賞に前回も三位の岩田裕美さん(宏升流宏升会)がそれぞれ受賞しました。

審査基準は正しい発声による的確な詩心表現と音楽性芸術性を重視、厳正なる審査を経て入賞者を選出した。この数年著しくレベルが向上し、三十五回目となる今回の大会でも上位四名が三点点差にひしめく大接戦となった。(次ページ得点参照)

当コンクールでは、吟題自由(俳句、和歌、近体詩、自作絶句)読みも流派派のものとし、更に公平な審査を考慮し一次審査は本数別審査を導入、各本数別優秀吟者が最終審査に進出した。

吟じ易い伴奏曲(協会指定十三曲)静・麗・雄・烈・哀・彩・凜・



涼・剛・唐・俳・静短・涼短を自由に選曲。更にハンドマイク使用も認められる。しかし上位入賞をめざすには吟詠の基本をしっかりと習得し、更に個性豊かでメリハリのあるスケールの大きな吟唱が望まれます。

今大会では上位入賞十名に女流吟士が八名と女性パワーに男性が圧倒された感があり次回は是非男性吟士の奮起を望みたい。

尚、一般成人の部競吟の前に幼少年の部(幼年から小学生までと中学高校)の部競吟が行われ、特に感じたことは、幼少年全体の吟力が目覚ましくアップ。見事な吟唱に心から感動の思いと共に惜しみない拍手、賞賛の言葉を送ります。



(大会実行委員長 岡村心蒼)

第35回 日本詩吟選手権全国大会成績表

日時 令和6年4月21日(日) 会場 東京都墨田区曳舟文化センターホール

- (最終決勝) (第1位) 文部科学大臣賞
- (第2位) 日本詩吟協会総裁賞
- (第3位) 日本詩吟協会理事長賞

一般総合の部

順位	出吟者名	審査委員長	審査員名							合計
		富澤龍吟	鷲野正明	星野紫虹	清水錦洲	志田岳紫	恵 聖	薄井是道	岩淵公胤	
1	奥山晴美	93	94	90	91	87	92	95	90	732
2	三浦聡子	93	93	88	92	91	89	93	92	731
3	岩田裕美	92	94	92	92	90	91	91	89	731
4	杉本江美	92	94	89	90	91	88	95	91	730
5	原田理絵	93	93	86	93	89	89	93	90	726
6	土田絵里香	95	92	91	91	90	86	88	91	724
7	手塚章治	87	94	90	89	91	91	88	90	720
8	古木和子	93	91	90	91	89	88	88	89	719
9	白田英夫	88	92	90	91	89	90	89	88	717
10	林文江	94	93	86	92	88	87	87	88	715

※同点の場合は審査委員長の点数が高い方を上位とする

本数別優賞者の方



右より

水七三四総三八五六一
 三本本本裁本本本本本
 中奥土手富倉原田根古
 野山方塚澤持田中岸木
 晴圭章龍 理露伸和
 勝美秀治吟操絵子行子
 さんさんさん総さんさん
 さんさんさんさんさん



幼少年の部

日本詩吟協会定期総会

日時 二〇二四年八月十七日(土)

十三時開会

会場 曳舟文化センター

総会成立宣言

会員総数 一〇二名中、出席六三名、

委任状二十八名にて総会成立を確認

金子相談役の開会の辞、富澤総裁及び海老澤名誉会長の挨拶。その後、岡村理事長を議長に選任し、次の各議案を審議。

一、二〇二三年度の事業及び会計報告、監査報告

二、二〇二四年度の事業案及び予算案

三、各大会の会計報告

四、入退者報告と新入会者の自己紹介

五、新入会者の提示。要点は以下の通り

*日詩協運営役員、各大会運営役員、所属地区別会員一覧表、会員名簿

*齋藤瑛堂相談役が退会。長岡千秋常任理事が相談役へ昇格。

以上の議案及び報告・検討事項は拍手にて承認し、審議を終了

続いて、今後の基本方針を岡村理事長が提示

*会則の精神に従って合議制で運営

*二〇二七年二月に創立四〇周年を迎えるので、早急に行事を企画

*日本詩吟選手権(コンクール)予選会では、言葉によるコメントを提供してきたが、

今年度から五段階の数字による評価点に切り替え、評価点票を提供。

*新しく事業部を設け、会員の皆さんが喜ぶ事業を開催するので、積極的に参加して、自分の居場所を作ってほしい。

その他

*所属地区別一覧表の確認……申し出があれば変更が可能

*伴奏CD・徽章……吉原総本部販売部長が状況説明

*地区予選へのネット申し込み……本田総本部広報副部長が配布資料「やってみようネット申し込み」によって説明

*伴奏曲の著作権……今後はコンクールでも著作権が発生。地区ごとに各伴奏曲の再生回数を集計することが必要

*齋藤相談役への金一封を添え感謝状を贈呈岩瀬顧問の閉会の辞と峰顧問の手締めで会を閉じた。(記/本田白郷)

研修会に参加して

関東を直撃するかと危ぶまれた超大型台風七号が太平洋沿岸を掠めて行った翌日、令和六年八月十七日に曳舟文化センターに於いて日本詩吟協会のコンクール審査に関する研修会が行われました。

今回の研修テーマは、従来の審査方式を大きく変更するというものでした。それは、審査するカテゴリーを「吟声」、「音程」、「節調」、「読み」、「詩心」の五つに絞り、それぞれ一五の五段階で評価するという内容です。審査

委員五名の評価から平均値を出して、そこに基礎点を加算して優劣が決まります。

コンクールに参加された方には、五段階方式で評価された各カテゴリーの結果をお渡しすることとし、従来の審査員コメントを受け取るにより、自分の弱点や優れている点を具体的な数値として可視化して知ることができると感じました。また、五段階方式は、我々の時代では馴染みのある通信簿と直結し、理解しやすいと思います。なお、このカテゴリーに入り難い項目(伴奏曲の選定ミス、相応しくない態度や服装、マイクの不適切な扱い方、一瞬の絶句や言葉のつまり等)については、六番目のカテゴリーとして減点の対象とすることについても協議され、今秋から地区予選のコンクールで実施される運びとなりました。この審査方法の変更については、コンクールに参加する方は元より、指導する立場からも、視点のあった吟力アップの後押しをして頂ける貴重な情報として活用させて頂きたいと思えます。(山本神松)

日本詩吟選手権大会

○神奈川県予選会

第三十五回日本詩吟選手権首都圏神奈川県予選会は、首都圏六地区の最初の予選会として、令和五年九月二十八日(木曜日)に、「横浜市市民文化会館関内ホール小ホール」において開催しました。

出吟者は、コロナ禍の影響もあり、前回の予選会より、四名少なくなり、六十三名となつ

てしまいました。会場内は、首都圏六地区での初めての予選会であることから、緊張と熱気に包まれていました。

予選会は、役員の方のご尽力により、ほぼ予定通りに進行し、各本数別の入賞者、合計二十八名を選出いたしました。

予選会実行委員長としては、三回目の大会でしたが、出吟者の皆様や、昨年同様に会場確保にご尽力いただいた、峰章山大会顧問、小川内心優副実行委員長並びに日本詩吟協会神奈川地区会員のご協力を得た大会で、深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

(山本宏晴)

○東京西部地区予選会

日本詩吟選手権大会首都圏東京西部予選会は、二〇二三年十月九日中野区野方区民ホールにて開催された。月曜日の祭日に会場を確保し、多数の応募を期待したが、諸事情により、五十三名の応募者数となった。競吟は武田誠風審査委員長他、四名の審査委員により慎重審議され、二十六名の入賞者が首都圏決選大会へ進出を果たし、無事に予定時間通り終了することが出来た。出吟者の皆様の熱吟、競吟進行へのご協力と役員の皆様の献身的なお力添えに深く感謝申し上げます。

(三浦暁泉)

○千葉北部地区予選会

令和五年十月二十七日(金)我孫子市我孫子けやきプラザふれあいホールにて開催しました。会場は我孫子駅より徒歩一分というアクセ

スが良く、参加される方にはとても好都合と思われます。

コンクールは四十三名と少し淋しい参加になりましたが、競吟の結果十七名の方が首都圏決選大会に進まれました。

参加された出吟者の方や遠方より大会運営に当って頂きました役員の皆様の献身的なお力添えに深く感謝申し上げます。

次回には参加者の増加の為おしみなく私共努力をしたいと思います。宜しくご協力お願い申し上げます。

(中野吟紫)

○さいたま地区予選会

令和五年十一月九日(木)さいたま市民会館おおみやに於いて開催いたしました。参加者は七十九名、首都圏に進まれた方三十五名です。この会場は一昨年創立したばかり、駅より近く、楽屋等も広く、音響もよく、申し分のない会場です。今年も会場取りが難しかったのですが、役員の方の協力のもと確保できました。

奮ってご応募宜しくお願い申し上げます。

(千葉龍愛)

○千葉南部地区予選会

三十五回千葉南部地区予選会(二〇二三年十一月十七日(金))の船橋市勤労市民センターで六十四名の参加者(前回は七十一名)によって開催しました。コロナ禍再開二年目、前回より若干減りましたが、熱戦が繰り広げられました。各役員の皆様の協力により無事終了できました。ありがとうございました。

コロナ禍、再開後特に、女性の八本の応募人数が二倍以上に増えた事と、六本の吟力が急上昇していると感じました。その為か全体のレベルアップに繋がりが、人数の減少が感じられない強い熱気が伝わってきました。

ご存知の如く、高齢化社会、吟界に於いては超高齢化社会と言えるでしょう。

私事ですが、大台を超え81歳になりましたが、詩吟の世界にどっぷりと浸かっていた為か、あちこちガタはきていますが、超がつくほど健康です。これからは気力、体力は下がるのみですが、それにあらがって行こうと思っております。運動の為にジョギングをしています。皆様も是非とも体を動かして下さい。吟も体力です。共に長く舞台上に立ちましょ。

(元気に、明るく、楽しく、そして美しく)私、サービスピ精神を溢れさせて、千葉南部地区でお待ちしております。

(長谷川聖漲)

○東京東部地区予選会

令和五年十二月八日(金)亀戸文化センター(カメリアホール)に於いて開催。平日にもかかわらず百二十九名の御参加を頂き、審査も二組の体制で行い、無事予定通りに終了。十七時前には退館の運びとなりました。五十名の方が首都圏大会に出選され、全国を目指して頑張ってくださいと思います。

又、当日は審査員の先生方をはじめ役員の方のご協力ですスムーズな運営が出来ました事、重ねて御礼申し上げます。

(松宮謳岳)

○福島県決選大会

第三十五回福島県決選大会が、十一月二十三
日郡山市の中央公民館多目的ホールで行われ、
シード者を含む七十五名が出場しました。

審査員に岡村理事長、山本宏晴先生、清水
露山先生をお迎えし、楽都郡山の誇る素晴ら
しい会場で開催出来ましたことに出場者から
も喜びの声が届きました。

四月二十日の全国大会へは十六名が選出さ
れました。その中には九十歳の方もおられ、姿
勢良く堂々と詠う姿、いくつになっても向上心
があり、努力するお姿に頭が下がる思いです。
「もう歳だからコンクールは卒業する」とよ
く耳にしますが、楽しみの一つと思つて、多
くの方に挑戦し続けていただきたいと心から
思っております。

福島県大会では恒例となつております。審
査員の先生方全員に吟詠をご披露いただき
ております。

地方ではなかなか全国の先生方の素晴らし
い吟を生でお聞きする機会がないので、会場
の皆様はこの時を心待ちにしております。

又、先生方からレベルの高いコンクールだつ
たとの好評をいただいた事で、次年度への挑
戦意欲が湧いたようです。これからも是非多
くのご参加いただければ嬉しく思います。

最後に参加された方から、課題がないこと
や、詩文を持って良いこと、本数別で評価
される等々……。とてもありがたい！と言わ
れました。暗記をしたはずなのに舞台上上が
ると緊張で忘れてしまい、悔しい思いをした

方は、詩文を持てるのはお守りだと話します。
日本詩吟協会は「出場者に寄り添う団体で
ある」と心から感じました。(石川渾風)

○栃木県決選大会

開催日 令和六年一月二十一日

会場 宇都宮市南図書館ザンクロスホール
今回の日本詩吟選手権栃木県決選大会は、
奇跡的に開催する事ができました。といいま
すのも、この会場を確保するのは、栃木とい
いまして東京同様に大変競争がはげしく困
難を極めております。たまたまホール主催の
事業が中止になったことで、会場を借りるこ
とができました。昨年・一昨年と会場確保の
抽選会に出席し、やっと確保できて、コロ
ナの為、開催できない状況となつてしまつて
いましたので、今回開催できましたのは小生
にとりましては夢の様でした。栃木大会は、
本部首都圏から大勢の役員の先生にご来県い
ただき、なりたつております。このことは今
後も本部の応援無しでは開催が困難な大会に
なつてしまいます。

幸いにして大会参加者は、小学生の子供た
ち五名を加え、目標としておりました総計八
十名程度の参加になりましたこと、大変あり
がたく、参加協力にご尽力いただきました県
内の先生方、また参加いただいた吟者の皆様
に衷心より深く感謝申し上げます。

初めての会場で、不手際も多々発生しまし
たが、本部役員先生方の温かいご支援があつ
ての大会となりました。

(藤田吟孜)

●第三十五回日本詩吟選手権大会
首都圏決選大会を終えて

去る、三月二日(日)曳舟文化センターホー
ルに於いて首都圏決選大会が行われました。
首都圏六地区予選会から選出された総勢一
八二名の方が、全国決選出場に思い馳せての
決選大会でした。結果、八十一名の方が全国
出場権を得ることが出来ました。おめでとう
ございました。

例年のごとく一点差を凌ぎ合う大会でした。
結果を見て審査員、採点に大変ご苦労され
た事が伺えます。例年全国決選に選出されて
いる吟者を超えて、選出された選手が増えて
来ているようにも感じられました。

凄まじいハイレベルな競吟になり、涙を飲
んだ方には次回を期して、更に技術を積み上
げて頂きたいと思えます。

日本詩吟協会の役員の皆様も大変お疲れ様
でございました。休憩の時間も短縮の中そつ
なく運営されて感謝申し上げます。

日本詩吟協会の本数別コンクールは、年々
人気が高まり声の低い方も、自分の本数で全
国優勝を勝ち取る事が出来ます。他では有り
得ないコンクールです。

全国決選大会に選出された選手の皆様には、
本数別優勝と総合優勝を目指して存分に力を
発揮して頂ければと思います。

(武田誠風)

華やかに！ 爽やかに！

新春吟詠のしぐさ

令和六年一月六日（土）江東区深川江戸資料館ホールにおいて「新春吟詠のしぐさ」を開催いたしました。

会 員 四十九名 一般参加 八十五名
 青少年 二名 合 吟 一組
 詩舞 二名

の構成で行いました。

会場はいつもの江戸資料館、江戸末期の深川の生の生活や町並みを実物大で再現され、雰囲気のある会館です。今回は伴奏はすべて尺八岡田純明先生、琴尼崎歌涼先生の生伴奏で吟じられ、会員皆の願いがかなえられ、力の入った吟をご披露出来たことと思います。協会の想いは「吟詠を通して友人と出会い、明るく、楽しい人生を歩みたい」を実践し、より一層良い会にしていきたいと願っております。大勢の参加とご協力に感謝申し上げます。
 （南雲黎晶）



〔寄稿〕

思ひぬ本心な仕事

「感心・感心」

本日は全国決選大会。時間差受付の中、大忙しです。出場者皆様と各役員のお弁当渡しも準備作業中の事でした。お弁当業者様から届いた一九〇個のお弁当を積まれた段ボールから取り出し、ビニール袋にペットボトルと箸を確認して引き渡せるよう大忙しです。審査員・役員用のお弁当の入れた袋には、間違わない様に名札を貼る作業をしておりました。その時、突然脇からお子さんの声が「お手伝いさせて下さい」慌ただしい作業を見ていての事でしょうか、一緒にいたお母さんから、娘が「お手伝いしたい」と言うものですが如何でしょうか。にこやかに言葉を添えられました。即、お手伝いをお願い致しました。手際よく名札貼り終えて頂き助かりました。お手伝い出来て「楽しかった」との事でした。日本詩吟協会副理事長三浦先生のお孫さん（美結さん）と美結さんのお母さん（聡子さん）でした。ご家族全員の素晴らしい、詩吟一家です。昼休み休憩迫る中、慌ただしい作業を助けない、お役に立ちたいと思う心に、吟道の真髄に触れたようでした。お手伝い有難うございました。ちなみに、美結さんは今回全国決選「中学校・高校生の部」で優勝、聡子さんは一般最終決戦で全国準優勝でした。おめでとう御座いました。今後、増々楽しみます。

（三月二十一日 記／武田）

◆◆ 催しのご案内 ◆◆

- ◎日本詩吟協会総会
 期日 令和6年8月17日（土）
 会場 曳舟文化センター
- ◎第36回 日本詩吟選手権大会
 ○東京西部地区予選会
 期日 令和6年10月5日（土）
 会場 中野区野方区民ホール
- 千葉北部地区予選会
 期日 令和6年10月25日（金）
 会場 我孫子けやきプラザふれあいホール
- 千葉南部地区予選会
 期日 令和6年11月15日（金）
 会場 船橋市勤労市民センター
- さいたま地区予選会
 期日 令和6年11月28日（木）
 会場 さいたま市民会館おおみや
- 神奈川県地区予選会
 期日 令和6年12月13日（金）
 会場 Fプレイス（藤沢）
- 東京東部地区予選会
 期日 令和7年1月10日（金）
 会場 江東区亀戸カメリアプラザホール
- 福島県決選大会
 期日 令和6年11月24日（日）
 会場 郡山市中央公民館
- 栃木県決選大会
 期日 令和6年12月19日（木）
 会場 サザンクロスホール
- ◎日本詩吟選手権大会 首都圏本部決選大会
 期日 令和7年3月16日（日）
 会場 亀戸カメリアプラザホール
- ◎日本詩吟選手権大会 全国決選大会
 期日 令和7年4月29日（祭）
 会場 曳舟文化センター
- ◎新春吟詠のしぐさ
 期日 令和7年1月11日（土）
 会場 深川江戸資料館劇場

寄稿

文部科学大臣賞に輝いて!!

奥山晴美

この度は、第35回日本詩吟選手権大会におきまして、文部科学大臣賞という栄誉ある賞を頂戴いたしました大変光栄でございます。

当日の審査員をしてくださった先生方ありがとうございました。

又、朝早くから大会運営をして頂いた役員の皆様ありがとうございました。役員皆様のおかげで何も心配することもなく大会に臨めました。

私と詩吟の出会いは実姉の存在です。当時身体の弱かった姉は父親の知り合いの方が詩吟教室を開いていたので、「詩吟は身体に良い」という父親の勧めで教室に通うようになり、やがて詩吟の魅力に惹かれていったようです。私も家で練習している姉の吟を聞いていたうちに興味がわいてきて、姉の勧めもあって一緒にお稽古に通うようになりました。当時、姉も私も練習が楽しくて、お稽古日が待ち遠しかったものです。

私の詩吟のルーツは、墨水流、師範大塚蘇峰先生です。この頃は詩吟人口も多くお教室の皆さんと競うように練習し、昇段試験に望んだ記憶が思い出されます。

私には大塚蘇峰先生と姉という二人の先生

がいたのでとても恵まれておりました。

藤の花が咲く頃に亀戸天神で行われる墨水流亀戸天神奉納吟詠において姉と二人で「櫻花詞」を連吟した思い出は忘れることはありません。私たちの吟を聞いて蘇峰先生の嬉しそうな顔が今でも浮かんできます。

その後、頑張つて師範許状を頂きましたが、結婚、出産、子育て、仕事などで30年間詩吟から離れていました。30年という月日は経ちましたが、詩吟への思いが沸々と湧き上がってきて、二〇一七年復活致しました。

復活してからは、沢山の方々と出会い、助けていただき、お仲間に加えて頂き、友達も増えてきました。高齢になってから友達が増えてきたのも、詩吟のお陰と感謝しております。今回コンクールで吟じさせて頂きました李白作「早に白帝城を発す」は詩情表現が難しく、上手く吟ずる事が出来なかったのですが、勉強会に参加したり、基礎練習に時間をかけたりしました。

奥の深い詩吟の入り口辺りにやっとたどり着いた様な気がします。これからも更に努力を続けて一段一段階段を登っていきたいと思います。

「努力は裏切らない」を心に刻み練習に励んでいきたいと思えます。

今回の優勝は自信にもつながりましたし、努力の成果が得られた：：本当に嬉しいです。これからの展望と致しましては、私の地元埼玉県三郷市吟詠連盟会長はじめ理事の方々の詩吟の魅力を広く知って頂きたくPRに力を入れていきます。

今回は社会福祉法人様からご依頼があり、PR効果があったと喜んでいきます。私も更に詩吟の魅力を知って頂くために少しでも貢献したいと思っております。そして、お仲間と楽しく練習したり、ランチを楽しんだり、コンサートに行ったりして人生をエンジョイしたいと思えます。

今回、この寄稿のご依頼を受けて、改めて私の詩吟の原点を辿ることが出来た様な気がします。

蘇峰先生と姉そしてあの時代の事など甦り胸が熱くなりました。

この栄誉ある賞は私にいろいろなものを与え、教えてくれました。

また、日本詩吟協会会員となる事ができ、嬉しく思います。ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

プロフィール

奥山晴美（吟号 美風）

櫻風会 会長

三郷市吟詠連盟 理事

NHK
「吟詠・夏にうたう」
出演しました

小池 洵風

去る5月13日、NHK101スタジオにてNHK Eテレの吟詠放送番組の「吟詠・夏にうたう」というテーマで、収録が行われ、6月16日に放送されました。出演者は少壮吟士に剣詩舞スーパーチームメンバーそして、我ら合吟コンクール優勝チーム(選抜)でした。毎年、1月と6月にテレビ放映しており、毎回楽しみにビデオを撮って見ておりましたので、まさかこの番組に自分たちが出演できるとは想像もしておりませんでした。



第53回全国吟剣舞道大会に東京都吟剣詩舞道総連盟(男子)代表として合吟コンクールに出場し、前年の準優勝に続き、史上初の全園優勝でした。

大会では、15名で出場しましたが、テレビ収録はNHKの都合で10名となりました。(吟者10名、小倉喜岳、小池洵風、近藤詩峰、白田芳勘、杉本獄駿、長谷川聖漲、福原錦章、松村伯洲、三浦暁泉、湯口岳政)

101スタジオは、大きなスタジオでその広さに圧倒される雰囲気、まずは、少壮吟士の皆さんから収録が始まりましたが、流石に堂々としていて余裕が感じられました。私たちは控室で、お互いに協力しながら紋付に着替えて待つっていると、着付けは担当の方が手直しをしてくれて、更にメイクさんに一人ずつ化粧室に連れていかれ、撮影用のメイクをしてくれました。プロの技で手早く、ササッと化粧をただけで大変身するほどのメイクでした。数回の声出し練習に、いよいよセット入り。セットは吟題「海南行」らしく落ち着いたセットに変わっていて一人一人にピンマイクが付けられると、グッと緊張がこみ上げて来ました。セットの舞台では、隣同士が一メートルくらい離れた位置なので、ディレクターから「音合わせ行きます」の声で、前奏が流れ、吟に入っていきますが、お互いの声が聴こえず、全く合いません。その様な中で、「本番行きます、Take One」。ディレクターから

の声を聴いたとたん緊張も最高潮。先導をやらせてもらってこんなに緊張したのは今までにない経験でした。かなり遠くに聞こえる伴奏に合わせ、必死になって声を出したところ、予想以上に声も伴奏にも合って一安心。この後はみんながやってくれると信じておりました。ところが、待つこと数分、一回の本番で『OK』を頂いてしまいました。ホッとすると同時に、私は、9人の仲間の吟力のレベルの高さに、改めて感服しました。しかし、このメンバーを指導してくれた松宮岳謳先生と仲間から『もう一回やらせて欲しい』と懇願したところ、ディレクターも了承してくれて『Take Two』の収録となりました。今度は気持ちに余裕があり、しっかりと改善されました。NHKの全国放送番組に出演することが出来たことは夢のような時間でしたが、良き仲間と知り合えたこと、我々が吟じた映像が全国に放映された事は宝物として大事にしていきたいと思っております。ご指導を頂いた松宮先生と応援して頂いた皆様から御礼申し上げます。



地区だより

吟詠道秀峰流

創立十五周年大会を終えて

吉原 秀峰

『吟生に友と絆に感謝あり』

創立十五周年と人生の傘寿の祝いを兼ねた今大会、日本詩吟協会の後援により四月七日(日)藤沢市民会館小ホールに於いて無事に開催することが出来ました。これもひとえにご出席の先生方、特に日誌協所属の先生方のお力添えで始めから終わりまでおんぶに抱っこ、感謝感謝感謝です。

番組構成にあたり、自分の描いた感謝の気持がどうしたら伝わるのか、そして吟界屈指の先生方に失礼の無いようにと大変苦労しましたが終わってみれば失礼なことばかり、そして感謝の気持は伝わったのだろうか？

ご挨拶を頂いた先生を始め多くの先生方からは逆にお褒めのお言葉を頂戴し、嬉しさと同時に大変恐縮した次第です。

秀峰流としては最後のこの大会、小池洵風先生の「ありがとう」の歌謡吟詠で幕が上がりました。

今回は初の試みとして、吟声の強弱で詩情を表現する詩吟に対して、体全体の動き、特に手指先の細やかな動きで感情や愛情を表現する南国情緒あふれるゆつたりとしたフラダンス、そして戸張一座と雪乃会社中によるパフォーマンスは賑やかで派手さの中にも荘厳

華麗で小さなお子さんの動きが可愛らしい千手観音等で舞台も明るく楽しく、詩吟とは趣の異なった雰囲気味わったことでしょう。

さて、舞台は剣詩舞や夫婦詩舞、聖・少壮吟士の吟、情熱的な愛の歌、愛の折り、

そして吟界最高峰の先生方の素晴らしい吟を聴き感動で一杯でした。そして大取りは岡村心蒼作詞作曲の人生シリーズ「人生ドスコイ夢一路」武島真美さんの館内に響き渡る清らかなで美しい声での呼び出し、岡村心蒼先生の歌で魅了し余韻がさめやらぬなか、カーン、カーンカン拍子木の音で大会の幕を下ろしました。終わってみれば準備の不手際も役員の先生方のお力により無事に終演することが出来ましたが、少し違った企画で臨んだ大会でしたが、何となく楽しかったなあ、と少しでも思っただけなら幸いです。お出演の先生方、お手伝いして下さった先生方には改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



地区だより

投稿 火の国愛吟会 温習会

四年間実施完結記念を終えて

会長 田代 綉媛

歴史を辿れば、二十五年を迎えております。令和元年に武蔵野芸能劇場にて二十周年記念大会を盛大に開催いたしました。その時会長那須野龍翔先生より会長任命をお受けしました。受けた以上は火の国の女として情熱を持って、前進するのみと考え、会議を開き、年間行事を組み立て直して「吟詠肥後の会」より「火の国愛吟会」と改名し、新しい発想で自由に会員さんが楽しめる会を目指して努力いたしました。

コロナが流行し、高齢の私達には大変厳しいこの四年間でしたが、今一度角度を変えて皆が楽しめる人生を考え、ここに分岐点といたしました。 〃四年間の実施完結記念会〃を開催いたしました。

ここまでこられましたのも日本詩吟協会の先生方のお力添えと感謝いたしております。

今回の構成 吟に出演下さ



いました諸先生お忙しい中本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

構成吟「築城名人・忠義を貫いた加藤清正公」脚本を書いて下さいました荒井縁節先生ありがとうございます。見事に花を咲かせて頂きました。

これからは歳を重ねても私達の持ち得る力を練って、しつとりと吟詠を賭み、燦吟に輝く吟詠を目指して会員共々邁進して参りたいと思います。

ご協力いただきました諸先生方心よりお礼申し上げます。

寄稿文

第35回 日本詩吟選手権大会に出場して

船山祥汰



日本詩吟選手権大会に出場するのは今回で二回目になります。西岡緑優先生のSNSを見て興味を持ち、WEBで簡単に

申し込みができたので出てみようと思いい立ったことから始まります。

私が詩吟を始めたのは、小学2年生の時です。友人の祖母が師範、会の副会長で少年少女の育成に力を入れており、誘われたのがきっかけでした。高校生の時に母も一緒に習い始めたので二人で毎週水曜日の夜稽古に通い、高校卒業までそれが続きました。大学進学で地元を離れ、京都へ。大学2年生から今所属している会にお世話になっていきます。

この選手権大会は、吟題、詩文の読みは自由。伴奏も指定の13曲の中から合ったものを選び。中でも、本数別審査という他の大会にはない特色を持っており、唯一無二。画期的な印象を受けました。一番の若輩者吟技はまだ未熟ですが、せつかく身につけたものなので無駄にならぬよう、これからも人生の糧として続けていく所存です。

目標としては、「雑念の入らない、明朗快活で気魂のある吟、人の心に響く吟」ができるように、そして、吟者自身も「一声土気高し、一吟天地の心」(渡邊緑村『吟道精神』)とあるように、「吟吟じ終わった後に爽やかな感じが残る吟」となるよう精進してまいります。

ある会のホームページを見ていたら、「詩吟とは漢詩・和歌・俳句・現代詩を熟読玩味し、作者と自己を一体化して詩情を自分の声で表現する芸術」とその通りですが、非常に良いことが書いてありました。詩には、四季を詠んだもの、ある事柄について詠んだもの、人物について詠んだもの、作者自身のその時の感情を詠んだものなど、さまざまあります。それらを自分の声でもつてどのように表現したら、聞く人の心を打ち、何らかの感じを与えることができるものだろうか。今後の課題でもあります。次年度以降も続けて出場して、たくさんの方先生方にご教授頂ければと思っております。

プロフィール

吟号・祥風
1997年山形生まれ、26歳。京都市在住
日本詩吟学院認可山形吟道会(2005年〜2016年まで)を経て、2017年より日本詩吟学院認可岳玲会(大阪)に移籍
真宗大谷派僧侶、真宗大谷派宗務所(東本願寺)に勤務

齋藤瑛堂先生

おつかれ様でした

日本詩吟協会において、会の発展に尽力していただきました。

副理事長として千葉地区予選会実行委員長又副会長、顧問、相談役と長きに渡り会を支えていただきました齋藤瑛堂先生が当協会を二〇二四年八月一七日総会をもちまして退会をされました。

当協会より長年の功績に対し感謝状と金一封をお渡しいたしました。

総会での先生のご挨拶のお言葉、協会への厚い思い、あたたかい力強い称賛の言葉を頂き残された我々もすっかり引き継ぎ、よりよい会をめざしてまいります。いつまでもお元気がありがとうございます。(岡村心蒼)

地区だより

第十二回 令和ドリーム(春夏秋冬) 詩吟の仲間たち

期日 令和六年十一月一日(金)
会場 アクト21ホール
連絡先 090-17273-17735(岡村心蒼)

寄稿文

台湾吟行記

清水 落山

詩吟を始めてから長い年月が経ったが、十年前、自ら漢詩を作ってみたいと思いい立ち何も解らないまま当時創立されたばかりの千葉県漢詩連盟に入会した。連盟は創立以来毎年春季・秋季の二回吟行会を行っている。色々なところへ吟遊し、風景や歴史的遺産、文化などに触れ、琴線に触れたことを作詩し、皆で合評しあつて作法を覚え、詩語を覚え、技術を洗練する、いわば腕を磨くのが目的である。

海外吟行は平成十三年を初回として今回は五回目となり台湾へは三回目として引率することとなり無事に帰還する事を願ひ四泊五日の旅に出た。今回は台北、台中を巡り、宝覺寺、龍鳳寺、日月潭、玄奘寺、文武廟、忠烈祠、故宮博物館、台北一〇一、淡水、行天宮、中正記念堂、龍山寺、西門街、迪化街、孔子廟、台北霞海隍廟などを訪ねた。二度目所もあつたが、何度訪れても新しい発見があり興味は尽きない。日月潭は二回目であるが、今回は遊覧船で水社から対岸の伊達郡まで遊覧した。晴天下、水飽くまでも清く、四方の青山を眺め、湖央の原住民族部(さお)族の聖地ラル島を右手に見ながら湖を横断した。昼食は湖畔の力麗儷山會。眺めの良い席で楽しむ。ビールをいただきながら美味しい料理を堪能する。ビールの銘柄は台湾麦酒で日本の

ビールより度数が低いのか飲みやすく、お茶代わりにグイグイ飲める。昼食・夕食には定番の飲み物だ。料理は四川料理、上海風などどこへ行つても美味しく、又ホテルも旅行会社に高級ホテルを要請していたため、対応・食事とも十分期待に答えられるものであつた。動向の皆さんが楽しく満足していただくのが一番である。

旅行に多少のハプニングはつきもので、最終日朝のことであつた。迎えのバスが交通渋滞で定刻に着かない。ガイドさんが素早く動き、最初の目的地である場所へタクシー数台で行く。バスは観光後に落ち合うこととなつた。そのお詫びとして昼食事にビールを提供してくれてラッキーであつたが、初めての経験であつた。台湾(中国もそうだが)を旅行して区別のつきにくいのが、廟、宮。寺の区別である。調べてみると、『一般に仏教などが依頼宗教の建物を「寺」というのに対し中国特有の宗教建築を「廟」とよぶ。また、道教の寺院は「観」または「宮」と呼ぶ』とある。因みに今回訪れた寺・廟・宮を当てはめてみるとその本尊・神は、龍山寺(觀世音菩薩)、玄奘寺(玄奘三蔵)、宝覺寺(弥勒菩薩)、龍鳳寺(觀世音菩薩)、文武廟(孔子、関羽、岳飞)、行天宮(関羽)。

ホテル宿泊は四泊、毎夜食後に三々五々私の部屋でウイスキーなどを飲みながら他愛もない話、今日訪れた先の話など親交を深めたのも良い思い出である。

この度は天候に恵まれ、病気や怪我もなく予定通り帰還できたことが何より嬉しいこと

であつた。一つの場所で何人かが詩を作つても、同じ詩にならない。各人の感じたことや切り取り方がそれぞれ違うからだ。毎回吟行会の詩集を刊行しているが、どんな詩が掲載されるのか楽しみである。

故宮博物院毛公鼎

故宮博物院の毛公鼎

欲觀寶物遠來尋

宝物觀んと欲して遠く来り尋ぬ

鼎有銘文思不禁

鼎に銘文有り思ひ禁ぜず

會使莊王問輕重

曾つて莊王をして輕重を問はしむ

今人戲道幾千金

今人戯れに道ふ幾千金かと

忠烈祠衛兵交代式

忠烈祠衛兵交代式

令聲曳曳貫青天

令声曳々青天を貫き

隊伍脚高嚴肅前

隊伍脚高くして嚴肅に前む

六尺屈強三尺銃

六尺の屈強三尺の銃

衛祠忠烈兩相全

衛祠忠烈両つながら相ひ全し

編集後記

この猛暑誰もがもううんざりと閉口している中、朝夕だけでも秋の気配(冷気)が一日も早く来て欲しいとお思う今日この頃です。皆様如何お過ごしですかさて、先日(の)総会におきます、日誌協に様々ご尽力賜りました斎藤映堂先生が退会されました。

先生の築かれました貴重な財産を後に続く会員一同、今後共に大切にしていける所存です。先生のご自愛と今後の益々のご発展を祈念しています。(南雲)